

## 「与論島を活性化させるためにはどのようなことをすればよいか」

0715600125 藤田 齊 弥

私は、与論島を実際に訪れ、島のあたたかさ、今まで見たことのないビーチにとっても心を打たれた。与論島は、死ぬまでに一度は訪れるべき島だと思うので、与論島のさらなる活性化のためにしたほうが良いことを真剣に綴りたいと思う。まず、活性化と聞いたら、すぐに考え付くのは、飛行機の便を増やすことや、何らかの建物をつくるということである。しかし、経済的・物理的に実現が難しいのが現状である。だから、私はより現実的で、データに基づいた活性化の方法として、「協力」をキーワードに、以下これを説明していく。与論島は、鹿児島県の中に含まれているが、鹿児島県とは約 600 キロメートル離れている。それに対して、少し南に行くと、与論島と同じように観光業で多くの収入を得ている沖縄県がある。授業中にもお話があったように、ハウス農業をする時などの補助率は鹿児島県よりも沖縄県のほうが多いのが現状である。もちろん、鹿児島県に属しているメリットもあるが、戦後、鹿児島県に属していたほうがよかったのか、沖縄県に属していたほうがよかったのかは、疑問が残る点である。ただ、これはもう変えることのできないことである。しかし、沖縄県と「協力」することは可能であると考え。ここで、沖縄県の観光客数の推移のデータを紹介します。このデータを見ると、沖縄県の観光客数は 2012 年から着々と増



えていて、2015 年には 776 万人にまで観光客数をのばすことに成功している。このような実績のある沖縄県と「協力」する一番のメリットは、沖縄県の観光客が与論島にも訪れるようになるということだ。与論島の観光客数は、5 万人に満たないのに対し、沖縄

県は、約 800 万人である。ということは、沖縄県の来客者数の 1%でも与論島に訪れてくれれば、与論島がますます活性化すると私は考える。では、具体的にどのように「協力」すればいいのだろうか。例えば、沖縄県では与論島の商品券を、与論島では沖縄県の商品券をそれぞれ安く配ることや、沖縄県と与論島の両方を訪れる観光客の交通費を割引することや、それぞれの地のホテル同士が「協力」して、この場合も、二つのホテルの両方に泊まってくれた観光客には割引をするなどが挙げられる。もしこの例が実現すれば、必然的に与論島と沖縄県を巡るツアーができるようになる。観光客にとっても、両方の地を効率的に楽しめるようになるのだ。また、与論島はギリシャ南部のミコノス島と協定を結んでいる。ここで再び上のデータを見てみよう。観光客が増加した一つの原因として、外国客の

増加が考えられる。与論島も外国客を増やしていくべきだ。そこで、外国客を増やす方法は、ミコノス島との親交をもっと深め、相手の国を自分の国で PR することである。私たち日本人が海外の素晴らしい島をあまり知らないように、海外の方も日本の素晴らしい島をあまり知らないと考える。それぞれの島で「協力」して島の良さを伝えることで、外国客も増え、活性化につながるのではないかと考える。

確かに、与論島は世界地図を広げても、目を凝らさなければ、見つけることができない 20 平方キロメートルの小さな島である。しかし、この小さな与論島は感動を絶するほどの素晴らしい海があり、豊かな自然に恵まれている。冒頭でも述べたように、私はこの与論島をぜひ一度訪れてほしいと心から思うので、全力で「協力」して、一人でも多くの観光客を呼び込んでほしい。そうすることで、活性化が大いに進むことを私は期待する。最後に、おもてなしをしてくださった与論島の関係者のすべての方に感謝の意を示すとともに、さらなる活性化を切に願う。

## 参考文献

[https://www.goyah.net/okinawa\\_news/politics\\_economy/page222150839.html](https://www.goyah.net/okinawa_news/politics_economy/page222150839.html)